

1. 輸出における現状と課題

【現状】

国内市場の縮小と海外市場の拡大の進展を踏まえ、台湾、マレーシアへ冷凍牡蠣を、タイへ冷凍真鯛を、香港へ生鮮ブリを令和5年に輸出を開始し、順次、輸出先国・地域と品目を拡大してきている。

【課題】

<水産物>

- ①水産物の輸出拡大に向けて、取引先との関係構築や、瀬戸内海以外での近海魚集荷に新たに取り組む必要がある。
- ②輸出先国の事業者等が求める衛生基準を満たすとともに、売場施設、貯蔵保管施設及び加工処理高度化施設の機能向上が必要である。
- ③輸出先の東南アジアについて、さらなる情報収集、市場調査の強化が必要である。
- ④市場調査等の結果をもとにニーズに対応した商品の開発、現地での商品プロモーション活動の実施が必要である。

<青果物>

- ①青果物の輸出拡大に向けて、輸出先国・地域の残留農薬基準に対応しつつ、集荷量を確保する必要がある。
- ②現状の卸売場は開放型で低温売場が無く、冷蔵庫も簡易保冷库がほとんどのため、商品の品質劣化や衛生面での問題が発生している。
- ③輸出先国・地域での販路開拓に取り組む必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

<水産物>

- ①卸売市場内の卸売業者のグループ企業や営業所などを含め取引先の新規開拓を進めるとともに、山陰や北陸、東北など集荷エリアを拡大する。
- ②施設整備により、輸出先国の事業者等から求められる品質・安全性・物量に対応できるよう、売り場施設、貯蔵・保管施設及び加工処理高度化施設の機能向上を図る。また、令和8年度に広島県食品自主衛生管理認証制度の認証及び国のベトナム向けの水産物加工・保管施設認定を、令和12年度にFSSC22000認証を取得する。
- ③令和7年度から、東南アジアの情報収集、市場調査を強化。また、収集した情報は、マーケティング資料として生産者や商社等に共有する。
- ④令和8年度から、タイやベトナム、シンガポールなどのニーズに対応した高所得者層向けの商品等を開発するとともに東南アジアでのパートナーと連携した展示会などのプロモーション活動を定期的に開催する。

<青果物>

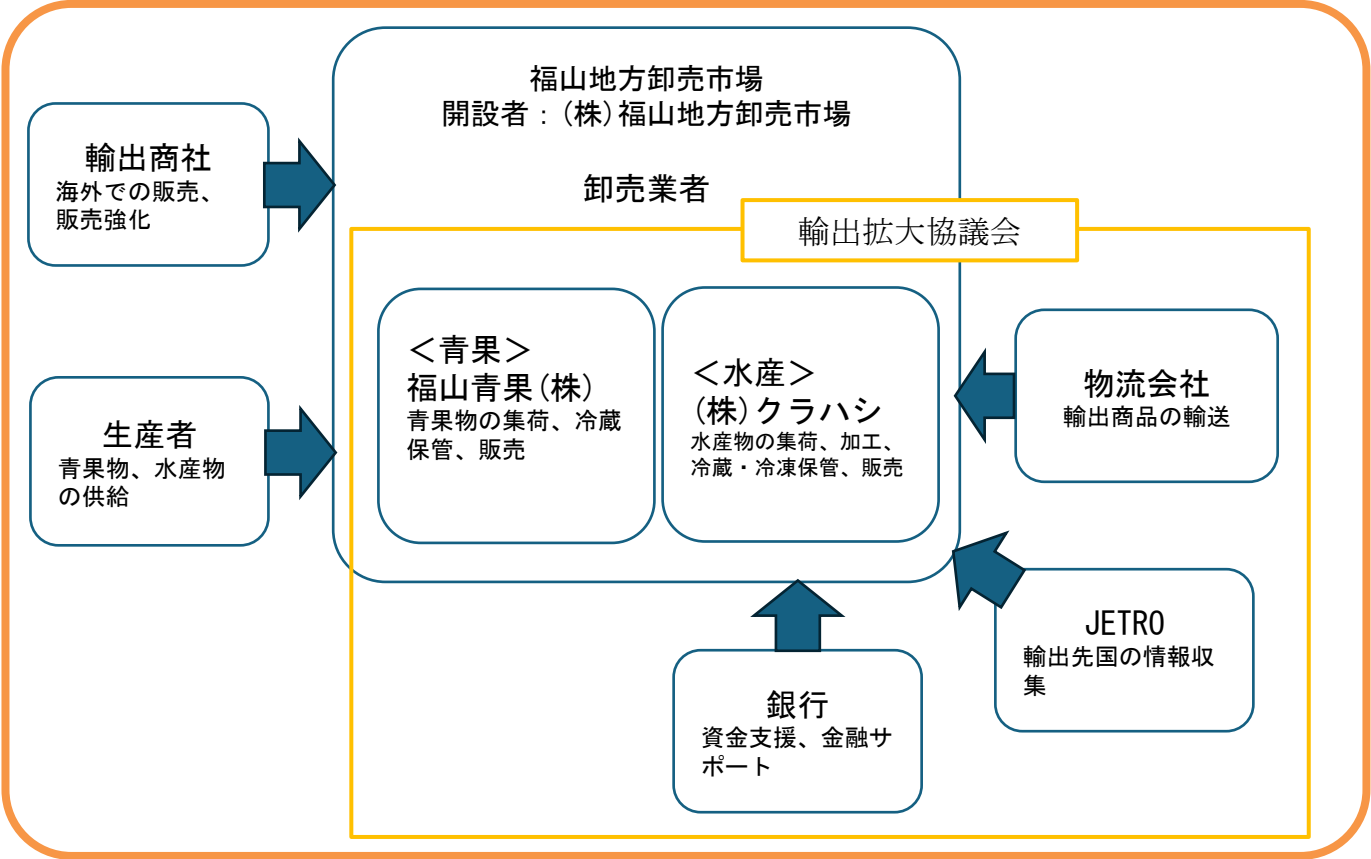
- ①青果棟の本格稼働に向け、輸出先国・地域の基準及び規制を産地と共有し、連携を強化する。また、果実を中心に輸出先国・地域の需要などの現地情報を産地と共有することにより、輸出向け青果物の計画的な栽培を促進することで、輸出向けに取引を行う産地数や品目数の増加に取り組む。
- ②施設整備の実施により、品質、衛生管理の向上を図る。
- ③金融機関の現地事務所等と連携し、香港・シンガポールの消費動向を把握するとともに、大手量販店等との取引を始め、現地販売先の開拓・拡大を図る。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社福山地方卸売市場

品目：水産物、青果物

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

品 目		現状（令和5年度） R5年4月～R6年3月	目標年（令和14年度） R14年4月～R15年3月
水産物	輸出額(千円)	119,400	2,038,282
	輸出量 (KG)	142,000	2,371,000
	輸出国先	マレーシア、香港、台湾、タイ	香港、台湾、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア
品 目		現状（令和5年度） R5年4月～R6年3月	目標年（令和14年度） R14年4月～R15年3月
青果物	輸出額(千円)	—	51,465
	輸出量 (KG)	—	74,000
	輸出国先	—	香港、シンガポール